

## 福祉サービス第三者評価結果表

### ① 第三者評価機関名

社会福祉法人山形県社会福祉協議会
------------------

### ② 施設・事業所情報

名称：山形大学小白川キャンパス 保育所「つぼみ」		種別：企業主導型保育所/認可外保育施設
代表者氏名：山形大学小白川キャンパス 保育所長・大西彰正		定員（利用人数）：10 名
所在地：山形市小白川町 1 丁目 3-10		
TEL：023-628-4910		ホームページ：https://www.yamagata-u.ac.jp/hoiku/
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：平成 30 年 9 月 1 日		
経営法人・設置主体（法人名等）： 国立大学法人山形大学		
保育業務受託団体：特定非営利活動法人やまがた育児サークルランド		
職員数	常勤職員：6 名	非常勤職員：5 名
専門職員	（専門職の名称） 名	
	保育士：3 名	保育士：4 名
	看護師：1 名	子育て支援員：1 名
	栄養士：1 名	
	連携推進員：1 名	
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	乳児室（ほふく室）1 室、調理室（共用）1 室、医務室（共用）1 室、トイレ 1 室、トイレ（共用）4 室、園庭 1 室	LED 照明、温水式床暖房、空気清浄機、自動火災報知機、非常警報器具

### ③ 理念・基本方針

【目的】子育てと仕事の両立を支援するため、国立大学法人山形大学と株式会社山形銀行が、「企業主導型事業所内保育所の設置・運営に関する相互協力及び連携協定（平成 29 年 11 月 8 日）」に基づき、連携して運営・共同利用を行います。また、地域枠を設け、学生の学業と子育ての支援や地域の女性活躍を支援します。

#### 【基本方針】

- ①安心・安全に生活できる環境をつくり、子どもの健康な心身の成長をはぐくみます。
- ②子どもが様々な人と出会い、関わり、心を通わせながら成長していくために、乳幼児期にふさわしい生活の場を豊かに作りあげていきます。

③よりよい子育て環境が実現できる地域社会とすべての人々がすこやかに暮らせる男女共同参画社会の実現に寄与します。

#### ④施設・事業所の特徴的な取組

- ①仕事と子育ての両立を支援するため、山形銀行と山形大学が連携して開設企業主導型事業所内保育所である。対象は生後57日から満1歳までの子どもとしている。
- ②山形銀行や山形大学で実施している育休セミナーに出向き、保育所の説明を行い職場復帰の不安解消につなげている。
- ③保育所内に調理施設を備え、地産地消にこだわった献立作りを通じて、子どもたちの食育に力を入れている。
- ④常時看護師を配置して保育中に体調不良になった場合に対応するなど、安全に保育が行える環境を整えている。
- ⑤少人数ならではの1人ひとりに寄り添ったきめ細やかな保育を行うことで、豊かな心と生きる力を持つ子どもの育成に取り組んでいる。
- ⑥小白川キャンパス構内や大学の教育施設などを活用して、他の保育所にはない工夫を凝らした活動を行っている。

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和4年7月4日（契約日） ～ 令和5年2月28日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	0回（                      年度）

#### ⑥総評

◇特に評価の高い点

一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。

本保育所では、子どもや保護者へ配慮し、子どもの発達等から生じる一人ひとりの個人差や課題の「見える化」を図り、職員間で共有しながら保育サービスに最も大切な「安全」「安心」を心がけ適切な保育事業を行っている。保育サービスの質の向上に向けて、職員の目標管理や資質向上の充実に取り組んでいる。これらの取り組みをはじめ、保育事業全般から保育所として子どもや保護者への尊厳や愛情が感じられる。

また、設置主体である「山形大学」や関連企業である「山形銀行」、保育業務受託団体である「やまがた育児サークルランド」が連携しながら、企業主導型事業所内保育所として適切な運営を通じて、「山形大学」や「山形銀行」の職員等の就労支援を充実させることで地域における男女共同参画社会の実現に取り組んでいる。

◇改善を求められる点

中・長期的なビジョンと計画の策定が望まれる。

保育業務受託団体である「やまがた育児サークルランド」と設置主体の「山形大学」の連携をより一層強め、「保育をする上での大切にしたい価値観や考え方」を共有し、保育所保育指針で示されている「子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進することに最もふさわしい生活の場」の構築に向けた取組みを進めていただきたい。その取組みの実現に向けて、施設環境（特に子どもの生活環境）の改善について、資金計画を含め長期的な視野で中・長期計画を策定することが望まれる。

また、0・1歳児の「保育所」であるという自覚のもと、子どもの発達状況に応じて、2歳児以上の保育施設（保育所・幼稚園）に繋ぐという部分も「中・長期計画」に含めていただきたい。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

総評で、適切な保育を行っていることを高く評価していただきました。これまでの取組みを専門的・客観的な立場から認めていただき、子どもや保護者にとって保育理念である「ひとりひとりに寄りそったあたたかい保育」であることを確認することができました。今後もこれを励みに保育にあたっていきたいと考えております。

今回、初めての第三者評価受審となり、課題として明らかになった点については、具体的な対策を検討し、改善していく計画です。また、設置主体である「山形大学」との連携をより一層強め、保育の質の向上と、より良い保育所を目指して努力してまいります。

⑧評価細目の第三者評価結果

別紙のとおり

## 【共通評価項目】

## 評価細目の第三者評価結果

※すべての評価細目（45 項目）について、判断基準（a・b・c の3段階）に基づいた評価結果を表示する。

※評価細目毎に第三者評価機関の判定理由等のコメントを記述する。

## 評価対象Ⅰ 福祉サービスの基本方針と組織

## Ⅰ-1 理念・基本方針

		第三者評価結果
Ⅰ-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		
1	Ⅰ-1-(1)-① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b
<コメント> 法人（保育所）の理念、基本方針が明文化されているが、内容や周知が十分ではない。 経営管理部門の理念、運営管理部門の理念はしっかりと明文化されているが、利用者にかかわる理念について、基本方針への落とし込みが不十分である。		

## Ⅰ-2 経営状況の把握

		第三者評価結果
Ⅰ-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		
2	Ⅰ-2-(1)-① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	C
<コメント> 事業経営をとりまく環境と経営状況が把握されていない。 保育業務受託団体である「やまがた育児サークルランド」と設置主体の「山形大学」間で経営状況について共有しておく必要がある。公費がはいっていることから、受益者（子ども）へ安心・安全な保育を提供するため、社会福祉事業全体の動向や地域の保育ニーズ等を分析し、事業経営を行うことが望ましい。		
3	Ⅰ-2-(1)-② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	C
<コメント> 経営環境と経営状況の把握・分析にもとづく取組が行われていない。 企業主導型保育施設への補助金が利用者に有効に還元されるよう、施設運営の環境評価と改善に向け、職員や利用者の意見をくみ上げて改善していく取組が望まれる。		

### I-3 事業計画の策定

		第三者評価結果
I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		
4	I-3-(1)-① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	C
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>経営や保育に関する、中・長期の事業計画も中・長期の収支計画のどちらも策定していない。</p> <p>中・長期計画の策定においては、経営環境の把握、分析結果を踏まえ、その実情の下で理念や基本方針の具現化を図るための事業が効果的に実施できるような内容が必要である。さらには、実現するためには、財政面での裏付け（中長期の収支計画）も不可欠となる。それらを踏まえた中・長期計画の策定が望まれる。</p>		
5	I-3-(1)-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	C
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>単年度の計画は、中・長期計画を反映しておらず、内容も十分ではない。</p> <p>当該年度の事業、保育に関わる内容はビジョンを踏まえ具体化されているが、中・長期計画が策定できていないことから、保育環境における人的環境と物的環境の向上に向けた具体的な計画を策定することが必要である。</p>		
I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。		
6	I-3-(2)-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。</p> <p>保育業務受託団体である「やまがた育児サークルランド」において、事業計画は職員の参画により組織的に策定されており、実施状況についても定期的に把握や評価・見直しが行われている。また、職員間への周知も徹底されている。</p>		
7	I-3-(2)-② 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>事業計画を保護者等に周知しているが、内容の理解を促すための取組が十分ではない。</p> <p>事業計画において、子どもの生活・成長に関する事項は大切な要素のため、利用者等の意向を反映させ、共通理解に繋げていく取組を事業計画に落とし込むことが望ましい。</p>		

## I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

		第三者評価結果
I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		
8	I-4-(1)-① 保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われているが、十分に機能していない。</p> <p>保育の質の向上に向けた取組は、本来、組織的に経営陣を含む役員と職員が方向性を同一にして進めるものとする。しかし、第三者評価の受審を契機に、向上を進めようとしているところは評価できる。</p>		
9	I-4-(1)-② 評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>評価結果を分析し、保育所として取組むべき課題を明確にしているが、改善策や改善実施計画を立てて実施するまでには至っていない。</p> <p>保育の質の向上に向けては、受益者である子ども・保護者の保育を第一に考えており、保育業務受託団体である「やまがた育児サークルランド」と設置主体の「山形大学」は保育所として取組むべき課題や改善策を共有化しているが、施設内の物的環境や遊具・教具の予算化が必要な部分の課題解決など、改善に向けた予算計画を整備することが望ましい。</p>		

## 評価対象Ⅱ 組織の運営管理

### Ⅱ-1 管理者の責任とリーダーシップ

		第三者評価結果
Ⅱ-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。		
10	Ⅱ-1-(1)-① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>施設長は、自らの役割と責任を職員に対して明らかにし、理解されるよう取り組んでいるが、十分ではない。</p> <p>施設長は設置主体の「山形大学」の職員（小白川キャンパス長）が担っているが、実際の業務責任者は保育業務受託団体である「やまがた育児サークルランド」の主任保育士が担っている。業務責任者としての役割と責任については、職務分担表等において示しているものの、保育所の事業経営面における施設長としての役割や責務について、職員に対して十分に明示できていない。</p>		
11	Ⅱ-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b
<コメント>		

<p>施設長は、遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っているが、十分ではない。</p> <p>業務責任者である「やまがた育児サークルランド」の主任保育士は、毎年企業型保育事業の施設長研修に参加し、法令遵守等にかかわる理解を深め、他の職員に対しても法令遵守等の徹底を周知している。しかし、設置主体である「山形大学」としては、人事異動等による施設長交代の際は、大学本来の引継ぎ業務のなかで、保育所の管理・運営等について十分に理解を深めるための取組ができていない。</p>		
Ⅱ-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。		
12	Ⅱ-1-(2)-① 保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>施設長は、保育の質の向上に意欲を持ち、組織としての取組に十分な指導力を発揮している。</p> <p>業務責任者である「やまがた育児サークルランド」の主任保育士は、毎週、毎月の個別支援計画の作成時等において個々の職員の評価・分析を行うとともに、月1回の事業ミーティングや職員研修会において研修等による保育の質の向上に向けた具体的な取組を行っており、その内容を設置主体の「山形大学」とも共有している。</p>		
13	Ⅱ-1-(2)-② 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>施設長は、経営の改善や業務の実効性を高める取組に十分な指導力を発揮している。</p> <p>業務責任者である「やまがた育児サークルランド」の主任保育士は、設置主体の「山形大学」とも連携しながら、山形市の補助金等を活用し、業務効率向上に向けたICT化（パソコン、タブレット等による書類の電子化）や、新型コロナウイルスの感染拡大防止に向けた環境整備に取組むとともに、予算の執行状況を毎月把握し、限られた予算のなか、子どもたちの保育環境を充実させるための経営上の工夫（節約や節電等）に取組んでいる。</p>		

## Ⅱ-2 福祉人材の確保・育成

		第三者評価結果
Ⅱ-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		
14	Ⅱ-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>保育所が目標とする保育の質を確保するため、必要な福祉人材や人員体制に関する具体的な計画が確立しているが、それにもとづいた取組が十分ではない。</p> <p>設置主体と運営事業者による委託契約のなかで人員体制について具体的な計画を示しているが、コロナ禍以降の保育士不足に対して、効果的な取組を実施することが望まれる。</p>		
15	Ⅱ-2-(1)-② 総合的な人事管理が行われている。	b

<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>総合的な人事管理に関する取組が十分ではない。</p> <p>保育業務受託団体である「やまがた育児サークルランド」では、期待する職員像等を明確にし、就業規則等において人事基準を職員等に周知している。また、目標管理シートや中間面談（ヒアリング）により、職員一人ひとりの評価・分析を行っている。</p> <p>ただし、職員処遇の水準については、運営委託費も関係することから、設置主体である「山形大学」としても、処遇改善の必要性等を評価・分析し、運営委託費の見直しにつなげる取組が求められる。</p>		
Ⅱ-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
16	Ⅱ-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取組んでいる。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>職員の就業状況や意向を定期的に把握する仕組みはあるが、改善する仕組みの構築が十分ではない。</p> <p>「働きやすい職場」に向けて、ヒアリングを通じて職員一人ひとりの就業状況や意向を把握し、個別相談窓口の設置、総合的な福利厚生の実施など、職員の心身の健康と安全の確保、ワークライフバランスに配慮した職場づくりに努力しているが、改善策を福祉人材や人員体制に関する具体的な計画に反映するなど、組織的な取組が行われていない。</p>		
Ⅱ-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		
17	Ⅱ-2-(3)-① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>職員一人ひとりの育成に向けた目標管理等が、適切に行われている。</p> <p>期待する職員像等を明確にするとともに、目標管理シートや中間面談（ヒアリング）を通して定期的な評価と振り返りを行うなど、職員一人ひとりの目標管理等が適切に行われている。</p>		
18	Ⅱ-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>保育所として職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。</p> <p>研修計画にもとづき、毎月のテーマ別研修の実施、全職員対象研修の実施、外部研修への参加などに取組むとともに、これらの研修の評価や報告等を職員間で共有している。また、専門資格取得に向けて、実技指導やスクーリングの際の勤務上の配慮などの支援を行っている。</p>		
19	Ⅱ-2-(3)-③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>職員一人ひとりについて、教育・研修の機会が確保され、適切に教育・研修が実施されて</p>		



<p>いる。</p> <p>研修計画にもとづき、職員一人ひとりに対する研修の機会が適切に確保されている。また、本人の希望を優先しながらも必要となる外部研修への積極的な参加を勧奨している。なお、外国籍の利用者への対応のため、英会話などの研修機会の確保を検討して欲しい。</p>		
Ⅱ-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		
20	Ⅱ-2-(4)-① 実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>実習生等の保育に関する専門職の研修・育成について体制を整備してはいるが、効果的な育成プログラムが用意されていないなど、積極的な取組には至っていない。</p> <p>山形大学の「保育所における教育研究活動に関する取扱要領」にもとづき、山形大学地域教育文化学部の教育研究活動に実習機会を提供しているが、保育所としての具体的な受入れマニュアルの整備等を進めていくことが望ましい。</p> <p>いわゆる資格取得等のための実習生等の受入れは行っていない。</p>		

### Ⅱ-3 運営の透明性の確保

		第三者評価結果
Ⅱ-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		
21	Ⅱ-3-(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>保育所の事業や財務等に関する情報を公表しているが、方法や内容が十分ではない。</p> <p>ホームページにおいて、保育所の運営方針や保育内容、事業計画等を適切に公開しているが、財務等に関する情報は公開されていない。</p> <p>また、地域へ向けた広報誌等の印刷物の配布は行っていない。地域の理解を深めていくための情報公開の取組が求められる。</p>		
22	Ⅱ-3-(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われているが、十分ではない。</p> <p>「企業主導型保育事業指導・監査等基準」にもとづき、公益財団法人児童育成協会による指導・監査を実施しているほか、設置主体である「山形大学」では、保育所運営委員会を組織し、保育所の管理運営や、運営委託法人の選定に関する事項等を審議している。また、保育業務受託団体である「やまがた育児サークルランド」においても、法人内の内部監査において、保育所の運営状況や財務等について監査を行っている。</p> <p>適正な監査は行われているものの、公認会計士等の外部の専門家の活用による経営改善の取組みが不十分である。</p>		

## Ⅱ-4 地域との交流、地域貢献

		第三者評価結果
Ⅱ-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。		
23	Ⅱ-4-(1)-① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	C
<p>＜コメント＞</p> <p>子どもと地域との交流を広げるための地域への働きかけを行っていない。</p> <p>山形大学小白川キャンパスを活用した散歩等の園外活動は行われているものの、企業主導型保育事業の特性上、積極的に地域との相互交流を広げるための取組は行われていない。</p>		
24	Ⅱ-4-(1)-② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
<p>＜コメント＞</p> <p>ボランティア等の受入れに対する基本姿勢は明示されているが、受入れについての体制が十分に整備されていない。</p> <p>ボランティアの受入れや、山形大学の「保育所における教育研究活動に関する取扱要領」にもとづく実習生等の受入れを行っているが、保育所としての具体的な受入れマニュアルの整備等は不十分である。</p>		
Ⅱ-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。		
25	Ⅱ-4-(2)-① 保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
<p>＜コメント＞</p> <p>子どもによりよい保育を提供するために必要となる、関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に把握し、その関係機関等との連携が適切に行われている。</p> <p>保育業務受託団体である「やまがた育児サークルランド」が持つ多様なネットワークや社会資源の情報を職員間で共有するとともに、必要に応じて、関係機関・団体と連携し、子ども・保護者のアフターケア等を含めた相談・援助活動等につなげている。</p>		
Ⅱ-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
26	Ⅱ-4-(3)-① 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	b
<p>＜コメント＞</p> <p>地域の具体的な福祉ニーズ・生活課題等を把握するための取組を行っているが、十分ではない。</p> <p>保育業務受託団体である「やまがた育児サークルランド」では、県内のさまざまな子育てニーズに対応した多方面に渡る取組（相談支援、訪問支援、産前産後支援、一時預かり、交流の場づくり等）を行っているが、保育所の持つ専門性や機能を活かした取組を工夫することが求められる。</p> <p>企業主導型保育事業として、一定層の保育ニーズに十分に対応しているものの、地域の福祉向上に向け、地域の保育ニーズを積極的に把握していく取組が求められる。</p>		

27	Ⅱ-4-(3)-② 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>把握した地域の具体的な福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が十分ではない。</p> <p>保育業務受託団体である「やまがた育児サークルランド」では、山形市中心市街地の活性化に向けた取組や東日本大震災における県内避難者支援などの公益的な活動を行っているが、保育所の持つ専門性や機能を活かした取組にも期待したい。</p>		

## 評価対象Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

### Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

		第三者評価結果
Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。		
28	Ⅲ-1-(1)-① 子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>子どもを尊重した保育についての基本姿勢が明示され、組織内で共通の理解を持つための取組を行っている。</p> <p>全国保育士会倫理要綱・運営ハンドブック・公益財団法人児童育成協会などの指針を解説し、月1回の園内研修で職員が実践するための取組を行っている。実施方法への反映は、紙ベースで回覧し全体周知と共に、身体拘束・虐待防止の周知徹底を図っている。</p> <p>入所前の慣れ保育で、方針等を保護者に伝え、要望を聞き理解を図る取り組みを行っている。外国籍の利用者もいることから、保護者の国や文化の違いに対する理解や配慮になお一層努めることに期待したい。</p>		
29	Ⅲ-1-(1)-② 子どものプライバシー保護に配慮した保育が行われている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>子どものプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備し、子どものプライバシーに配慮した保育が行われている。</p> <p>狭い空間を工夫し、おむつ交換や着替えなどは簡易の仕切りを用いて他からの視線を物理的に遮るなど視覚的に配慮した対応や、場面によって医務室を利用するなどプライバシーの保護に努めている。</p>		
Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
30	Ⅲ-1-(2)-① 利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>利用希望者に対して保育所選択に必要な情報は提供しているが、企業主導型事業所内保育所であることから、地域枠は少ないため積極的な提供はできていない。</p>		

利用希望者に対する必要な情報は設置主体の「山形大学」が作成しているが、適宜見直しや情報の更新を行うことが望ましい。		
31	Ⅲ-1-(2)-② 保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>保育の開始・変更時の同意を得るにあたり、組織が定める様式にもとづき保護者等に説明を行っているが、十分ではない。</p> <p>入園のしおり、保育所からのご案内等を通して、福祉サービスの開始・変更についてわかり易い工夫をしている。やさしい言葉使い・写真・絵の使用で誰にでもわかる資料づくり、外国籍の保護者など特に配慮が必要な保護者に対する説明について、英語版等の説明書の準備の配慮が必要である。</p>		
32	Ⅲ-1-(2)-③ 保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮しているが、十分ではない。</p> <p>保育所利用終了後の相談方法や問合せ窓口が重要事項説明書等に明文化されておらず、今後、保育の継続性に組織的に取り組んでいくために、それらの整備に取り組んだうえで、必要に応じて子供や保護者に対する説明を行っていくことが求められる。</p>		
Ⅲ-1-(3) 利用者満足の上昇に努めている。		
33	Ⅲ-1-(3)-① 利用者満足の上昇を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>利用者満足を把握する取組を整備し、利用者満足の結果を把握しているがその向上に向けた取り組みが十分ではない。</p> <p>保護者に対するアンケート調査は、外国籍の保護者等の一部の保護者の意向が汲み取られていない。保護者が理解できる言語でアンケートを実施するなどの工夫を行い、100%のアンケート回答が得られることが望ましい。</p> <p>また、アンケート調査結果の分析・検討を実施し、改善については速やかに具体的な取組を保護者に報告することが望ましい。</p>		
Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。		
34	Ⅲ-1-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>苦情解決の仕組みが確立していない。</p> <p>苦情解決の取組は設置主体の「山形大学」で行っているが十分ではない。苦情解決と保護者への周知が不十分であるため、直接苦情受付の表示を行うなど意見を述べやすい仕組みを整える必要がある。</p> <p>「重要事項説明書」には相談・苦情等の窓口のみの記載である。「重要事項説明書」に苦情解決第三者委員の連絡先を記載することが望ましい。その他、保育所内に保護者向けの意</p>		

見箱などを設置し、意見を述べやすい体制にする必要がある。		
35	Ⅲ-1-(4)-② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>保護者が相談したり意見を述べたい時に方法や相手を選択できる環境が整備されているが、そのことを保護者に伝えるための取組が十分ではない。</p> <p>保護者が保育所へ相談したり意見を述べるにあたって、複数の方法や相談相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を準備したり、その文書を見やすい場所へ掲示することが望ましい。</p> <p>保護者にとって、保育所に意見を述べたり、保護者と保育所が円滑にコミュニケーションを取れる体制を整えることが重要である。特に、外国籍の保護者への保育所たよりや連絡事項については、外国籍の人でも理解できるよう必要な言語による準備などの配慮が求められる。</p>		
36	Ⅲ-1-(4)-③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>保護者からの相談や意見を把握しているが、対応が十分ではない。</p> <p>連絡帳を活用し保護者からの相談や意見を把握しているが、利用者からの質問箱の設置については、子ども向けの活用にとどまり保護者からの意見は募集していない。保護者が匿名でも相談しやすく様々な意見を述べやすいような工夫が必要である。また、保護者からの相談や意見があった際には、担任保育士だけでなく、必要に応じ主任保育士等と連携しながら組織的に対応できるように相談対応マニュアルを作成することが望ましい。</p>		
Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。		
37	Ⅲ-1-(5)-① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>リスクマネジメント体制を構築されているが、子どもの安心と安全を脅かす事例の収集や要因分析と対応策の検討・実施が十分ではない。</p> <p>ヒヤリハット及び事故報告書を作成し、リスクマネジメント体制が整っている。また、外部講師を招いて「外部からの侵入者への対応」や「食中毒の発生時の対応」について研修を行っている。</p> <p>日々、保育士等による遊具や備品等の確認や点検などを行っているが、保育所内の重大な事故に結びつく懸念のある個所の改善は、設置主体である「山形大学」としても中・長期計画に落とし込み、安全な環境整備に取り組むことが求められる。</p>		
38	Ⅲ-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>感染症の予防策が講じられ、発生時等の緊急時の子どもの安全確保について組織として体制を整備し、取組を行っている。</p>		

子どもや保護者の体調不調時や感染時の登園の目安が明確に示されており、感染症の蔓延防止や子どもの安全確保が適切に行われている。		
39	Ⅲ-1-(5)-③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a
<p>＜コメント＞</p> <p>地震、津波、豪雨、大雪等の災害に対して、子どもの安全確保のための取り組みを組織的に行っている。</p> <p>災害時の保護者への連絡方法が明確化されており、家族への引継ぎの方策も整っている。保育所のハード面においても、耐震診断を受けて必要な措置や落下防止措置及び消火設備の充実が図られている。</p>		

## Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

		第三者評価結果
Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。		
40	Ⅲ-2-(1)-① 保育について標準的な実施方法が文書化され福祉サービスが提供されている。	a
<p>＜コメント＞</p> <p>保育について、標準的な実施方法が文書化され、それにもとづいた保育が実施されている。</p> <p>保育所だより等への子どもの写真掲載の際は、入所時のみにとどまらず、随時確認を行うことで個人情報保護を厳守している。</p> <p>外国籍の保護者へ向け、多言語での保育所たよりや情報提供も標準的なサービス提供として、取り組むことが望ましい。</p>		
41	Ⅲ-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
<p>＜コメント＞</p> <p>標準的な実施方法について定期的に検証し、必要な見直しを組織的に実施できるよう仕組みを定め、仕組みのもとに検証・見直しを行っている。</p> <p>標準的な実施方法の見直しや点検は随時、職員会議を通して確認するほか、伝達・回覧によって職員間の周知を図り、保育計画に反映させている。</p>		
Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。		
42	Ⅲ-2-(2)-① アセスメントにもとづく指導計画を適切に作成している。	a
<p>＜コメント＞</p> <p>アセスメントにもとづく指導計画を作成するための体制が確立しており、取組を行っている。</p> <p>「アセスメント→計画作成→実施→評価→見直し」といったPDCAの一連のプロセスについて、手法や手順を明確化し、それに沿った取り組みを毎月の研修会の際に、職員間で確</p>		

<p>認・共有している。</p> <p>指導困難なケースについては、保育士・看護師・栄養士・嘱託医などの専門職の参加のもと、保護者の意向を反映しアセスメント等に関する協議を実施している。</p>		
43	Ⅲ-2-(2)-② 定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>指導計画について、実施状況の評価と計画の見直しに関する手順を組織として定めて実施している。</p> <p>担当保育士による定期的な指導計画の評価・見直し手順が確立している。また、指導計画の見直しによって変更した内容については職員間で共有されている。</p>		
Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。		
44	Ⅲ-2-(3)-① 子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>子ども一人ひとりの保育の実施状況が適切に記録され、職員間で共有化されている。</p> <p>入所時に提出される児童表・健康調査票・食物アレルギーに関する調査票などを基に子どもの発達状況や生活状況を把握しており、保護者との協議による保育内容の変更が生じた際は適切に職員間で共有化されている。</p> <p>なお、情報共有及び事務処理の合理化を図るため、ICT化の活用を進めることが望ましい。</p>		
45	Ⅲ-2-(3)-② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>子どもに関する記録の管理について規程が定められ、適切に管理が行われている。</p> <p>職員が「個人情報の保護に関する法律」の内容と個人情報保護委員会から公表されたガイドラインの理解に努め法令遵守をしている。また、個人情報保護委員会から公表されているとくに厳格な個人情報の管理が求められる特定分野についてのガイダンスに準拠した取組を行っている。</p> <p>保護者等から情報開示を求められた際のルール・規程が整備されている。</p>		

## 内容評価基準

### A-1 保育内容

		第三者評価結果
A-1-(1) 全体的な計画の作成		
A①	A-1-(1)-① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。	a
<p>〈コメント〉</p> <p>全体的な計画は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じ作成している。</p> <p>0・1歳児対象の保育施設であるため、長期的な見通しを立てるのは難しいところがあるが、子どもの心身の発達等について保育計画を作成し、併設する認可外保育施設「のびのび」と連携しながら活動している。</p>		
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開		
A②	A-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	b
<p>〈コメント〉</p> <p>生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備しているが十分ではない。</p> <p>限られた環境の中で多くの工夫がなされているが、個人差・発達差が大きい0・1歳児の生活空間の環境としては、個々の生活リズムやその日の体調に合わせた採光や遮音等の環境調整の工夫が望まれる。</p>		
A③	A-1-(2)-② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a
<p>〈コメント〉</p> <p>一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。</p> <p>0・1歳児の保育施設として、しっかりと子ども一人ひとりの発達状況を踏まえた保育が行われている。</p>		
A④	A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a
<p>〈コメント〉</p> <p>子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。</p> <p>個々の子どもの発達やその日の体調などを確認し、職員の協働のもと生活に必要な基本的な生活習慣を身に着けられるよう配慮している。</p>		
A⑤	A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開してい	b



	る。	
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開しているが、十分ではない。</p> <p>1歳児も2歳の誕生日を迎えるころは、同年齢の友達や保育者と一緒にやることに興味を持ち、行動に移す頃であり、そのことが、子どもたちの社会性の獲得に繋がる。0・1歳児対象の施設では、子どもたち一人一人の発達段階に応じた保育と環境を考え、次につなげる保育を考えた場合、1歳児の期末の目指す姿を設定し、発達の連続性を考えながら2歳児の保育過程に繋げていくよう展開していくことが望ましい。</p>		
A⑥	A-1-(2)-⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p> <p>それぞれの保育の場面において、保育者が子どもに応答的なかわりが持てるように配慮された保育を行っている。</p> <p>また、子どもの自我の育ちを受け止め、豊かな人間性を培えるよう、保育者が適切な関わりをしている。</p>		
A⑦	A-1-(2)-⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p> <p>入所対象となる、0・1歳児に対しては、それぞれの保育の場面において、保育者と応答的なかわりが持てるように配慮された保育を行っている。</p>		
A⑧	A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開がされるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	非該当
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>非該当</p>		
A⑨	A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮しているが、十分ではない。</p> <p>現在は実際に障害のある子どもがいない状況ではあるが、将来的に障害のある子どもを保育する必要が生じたときを想定して施設環境、保育環境を改善していく必要がある。また、0・1歳児は、個々の発達状況において配慮が必要であることを踏まえ、発達支援の取組体制を整えて欲しい。</p>		

A⑩	A-1-(2)-⑨ それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮しているが、十分ではない。</p> <p>企業主導型保育施設であり、保育時間が限定されているが、個々の保護者の個々の事由による延長保育の際は、それぞれの子どもへの対応として、「おやつ」の準備等を想定して保育を行うことが望まれる。</p>		
A⑪	A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	非該当
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>非該当</p>		
A-1-(3) 健康管理		
A⑫	A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>子どもの健康管理を適切に行っている。</p> <p>看護師、栄養士の協働のもと、体調悪化やけがなどの子どもの心身の健康管理がなされ、職員間の共有、保護者との連携もなされている。</p>		
A⑬	A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。</p> <p>診断結果については、関係職員に周知したうえで記録を残し、一人ひとりの子どもの保育計画に反映することで保護者との協力関係が出来ている。</p>		
A⑭	A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っているが、十分ではない。</p> <p>アレルギーガイドラインに沿ってマニュアルを整備し対応している。個別の食物アレルギーの対応に関しては、定期的に保護者と情報共有しながら別献立等で対応しているが、アレルギーのある子どもの受け入れ時の対応や、離乳食が終わり、幼児食へ移行する際のアレルギーチェックの際には医師と連携するなどの工夫が必要である。利用者に対して、アレルギーが判明した場合の対応方法を適切に明示し、施設で提供する給食として栄養面での配慮を示していくことが望まれる。</p>		
A-1-(4) 食事		

A⑮	A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>食事を楽しむことができるよう工夫をしている。</p> <p>1歳児特有の「遊び食べ」「手づかみ食べ」にも気を配り、保育者の援助も含め食べ物に興味や関心が持てるように工夫しながら、子どもの発達に配慮している。</p>		
A⑯	A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供しているが、十分ではない。</p> <p>食事は子どもの身体的成長の基本であり、家庭での「朝食・夕食」との関係や摂食状況、生活リズムの確立にも影響してくる。連絡帳等を通じて、朝昼晩の食事量を記録しているが、子どもにとっておいしく魅力のある食事となるように子どもの嗜好や喫食状況、食べ残しについて家庭や調理師と連携してお互いに把握していくことが望ましい。</p>		

## A-2 子育て支援

		第三者評価結果
A-2-(1) 家庭との緊密な連携		
A⑰	A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。</p> <p>入園説明会で、保護者に「入園のしおり」を配布し、毎月保育所だよりや食育だよりを発行し、活動の様子や子どもの状況を知らせている。入所時に1か月の慣れ保育の期間を設け、安心した入所に結び付けている。フリー参観では、保育所の様子をいつでも見れるように保護者を受け入れ、保育の内容を丁寧に説明する等、保護者と密接な連携を行っている。</p>		
A-2-(2) 保護者等の支援		
A⑱	A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>保護者が安心して子育てができるように支援を行っている。</p> <p>保護者との会話を積極的に行い、思いを受け止めながら、コミュニケーションや信頼関係を築くよう努めている。保護者が心配なことや気になることなどがある場合は、いつでも保育所に相談ができることを知らせている。</p> <p>また、保護者の変化等、気になることがあった場合は声をかけ、精神面の負担緩和に寄り添っている。相談内容によっては、管理者（主任保育士）が対応し、子どもの身体や健康・食事等に関しては専門職の看護師や栄養士が対応している。保育園内での解決が難しい場合は、「やまがた育児サークルランド」や発達相談などの専門機関等を紹介している。</p>		

A⑱	A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めているが、十分ではない。</p> <p>朝の視診やおむつ交換時・着替え時のかかわりのなかで、子どもの心身の状況を観察している。また、送迎時に保護者とかかわりなどから家庭の状況把握に努めている。</p> <p>運営規定等に、子どもの人権の尊重、被虐待児の早期発見と適切な対応、虐待防止のための措置が明文化され、それにもとづいた対応や体制が整備されているが、職員への周知や理解を深めることを目的とした研修の実施が求められる。</p>		

### A-3 保育士の質の向上

		第三者評価結果
A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）		
A⑳	A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めているが、十分ではない。</p> <p>保育者の自己評価は、自らの保育実践の反省だけでなく、改善に向けて行うもので、「子どもの育ちを捉える視点」と「自らの保育を捉える視点」が必要となる。自己評価は、保育者が個別に行うことは当然であるが、そこから見えてくる課題を職員相互で話し合い、一人では気づけなかった保育の良さや課題の確認に繋げることが望ましい。また、学び合いや協働の基盤づくりに繋がるよう継続して取組まれない。</p>		